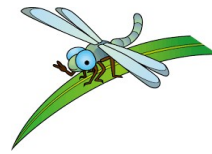


研究所だより

第461号
2023年 9月 5日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ とんぼのめがねは 水いろめがね
青いおそらを とんだから とんだから
とんぼのめがねは 赤いろめがね
夕焼け雲を とんだから とんだから ”
『 とんぼのめがね 』 1949年(昭和24年) 童謡



～2学期スタート～

今年、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、行動制限の無い夏休みとなりました。全国的にも人の流れも多くなり、子どもたちは旅行やレジャー、部活動に充実した時間を過ごしたことでしょう。

9月1日の高知新聞見出しに「県内8月雨多かった」が目につきました。台風6号の速度が遅かったため影響が長引き、局地的な豪雨をもたらしました。9月の気温は、全国的にも平年より高い見込みで厳しい残暑が続くと予報されています。引き続き熱中症に注意が必要です。夏の疲れが出やすい時期なので、バランスの良い食事や十分な睡眠を取るなど対策を心がけましょう。

1日(金)は「防災の日」。今年には1923年に発生した関東大震災から100年の節目にあたります。地震に備え県内一斉に「シェイクアウト(地震から身を守る行動)訓練」が行われました。各校では、「自助・共助・公助」「自分の身は自分が守る」を合い言葉に災害に備えての準備・訓練を徹底していきましょう。

2学期が始まり、4年ぶりに行動制限の無い夏休みを過ごした児童生徒の元気な顔、声が学校に戻ってきたことでしょう。

2学期は、運動会、教育文化展、音楽祭など諸行事の多い学期です。しかし、行事を通して仲間づくりや地域の皆様と関わりを深めることができる学期でもあります。地域と連携しながら実りの多い2学期であって欲しいと思います。

＝夏休み明けの学級づくり＝

4年ぶりに行動制限の無い40日余りの家庭主体の生活から学校生活へ戻ってきた子どもたちにとっては、学校や学級で夏休み前にできていたことができなくなったり、築き上げたことが崩れたりしていることがあります。再確認しながら様々な取り組みを始めましょう。

【ルール・マナーの再確認】

みんなで気持ちよく集団生活を送るためのルールやマナーの意識が薄れ、夏休み前に身につけていたものも忘れていくことが多いでしょう。そこでまず取り組みたいのは、人と関わるときや集団で生活するときのルールやマナーの再確認です。学級の実態に応じて、みんなが楽しく快適に学級で生活したり、活動できるように、ルールやマナーをいくつか決め、全員で守れるようにしましょう。

ルールやマナーを確立するために担任から強制的に守らせることは、子どもたちの反発を防ぐために避けた方がよいでしょう。ルールやマナーは、人と関わったり、集団生活で楽しく活動したりするために、人間が編み出した生活の知恵であることを十分理解させた上で、子どもたち自身で決めさせ、取り組むようにしたらどうでしょうか。

また、各係活動や委員会活動等の中で、学級での存在感を植えつけ、互いに認め合う雰囲気づくりをすることで、集団を高め合うことができます。行事を通していつも以上に子どもたちの心に寄り添い、異変のサインを見逃さないように心がけ、大人が心配していることを伝え、話を聞くことが第一です。

☆第73次土佐清水市教育研究集会・一日教研開催☆

8月2日(水)に第73次土佐清水市教育研究集会・一日教研が開催されました。今年も3密回避の観点からオンラインによる全体会(開会行事・講演)を3会場(公民館・清水小・清水中)に分散して行いました。

開会行事では、岡崎 哲也教育長から本市における不祥事について、全国学力調査本校採点における状況について、ふるさと教育の推進(各校の魅力ある取り組みの発信)などについて、佐竹正史委員長からは、歴史ある教育研究集会の意義、自主的・主体的に取り組んできて今一度再認識していく時である。学校現場ではICT環境が整ってきて、ネットトラブルが起きている。安心して学習できるように情報モラル教育の重要性について話していただきました。

オンラインによる講演では、静岡大学 塩田 真吾准教授に「一人一台端末環境における情報活用能力としての情報モラル教育の指導法」と題して、講話と演習をしていただきました。講話の主な内容は、情報活用能力とは「情報を上手に活用する力と情報のリスクに対応する力の両面が必要である。場当たりのトラブル対応だけでなく、計画的に情報モラルを含む情報活用能力を育てることが重要である。トラブルへの対応の指導のポイント



①として、トラブルへの「自覚」を促し、「自分ごと」として考えさせる。「自分がされて嫌なことは、相手にもしない」の既成概念は、「思い込み」でトラブルが起きやすい。

指導のポイント②として、「リスクの見積もり力(危機予測)を高める」1か0かの発送ではなく、リスクのグラデーション発想。「どのような特徴があったら、危険と判断すればよいか」という危険を予測する力を育む。指導のポイント③として、24時間の時間の使い方を比較し、タイムマネジメントの力を育てる。将来のことを考えて「自律(自分の意思で判断、行動)」の力をどのように高めていくのか。タイムマネジメントの基本を身に付ける。指導のポイント④として、情報モラルの時間の確保のために「これまでの情報モラル教育」+「ICTの活用場面」をセットで学ぶことなど、適宜演習を取り入れながら、とても分かりやすく話していただきました。



(感想)

○思い込みによるトラブル。このお話はとても納得できるものでした。自分と相手の違いを自覚することって意外と難しいと改めて感じたことです。また、「絶対大丈夫」と思っている人は、リスクを想像できない人の可能性が高いということも大きくなりました。

大人の私たちでもそうなので、子どもだと余計に思い込みや想像力の低さはあると思います。情報モラルは指導していかなければならないと考えていたのでタイムリーな講演でした。ありがとうございました。

○子どもに指導する際に、いけないことだけに目を向けてしまっていた。どの程度のリスクがあるのかをこれから一緒に考えていきたいです。

リスクに対応する力について①リスクへの自覚、③リスクへの見積もりの2点を今以上にこれからの情報モラル教育で取り組んでいきたい。

「自分がされて嫌なことは相手にもしない」ことを意識していたが、それが個人の価値観で違うことが分かった。時間を予想することは私自身も苦手なので、実践して改善していきたい。

○演習を含めた研修で、自分事として考え直すことができた研修でした。トラブルの自覚についての所で自分が高校生の時に実際にSNSでのトラブルが起きたことを思い出しました。相手がされて(言われて)嫌なことが、自分と同じとは限らないことを改めて知ることができたので、同じことが生徒の身のまわりで起こらないように注意したいと思いました。

午後からの部会別研修では、猛暑をものともせず、講師招聘しての研修やフィールドワーク等、先生方のやる気と熱意が伝わる研修が行われました。下記に研修の様子を紹介します。



①〔国語部会〕
「読解力を高める授業方法について」
講師：池谷 康史指導主事
(西部教育事務所)



②〔社会科部会〕
ジョン万次郎史料館見学・講話
講師：田村 公利さん
(市史編纂室長)
*清水高校教員6名参加



③〔算数数学会〕
「算数数学でいかにして深い学びを
実現するか」
講師：中野 俊幸先生
(高知大学教職大学院専攻長)
アソシエイト：吉本 果矢先生
(高知大学大学院生)



④〔理科部会〕
大岐海岸散策・ジオ学習
講師：土井 恵治さん・森口 夏季さん
(ジオパーク推進協議会専門員)



⑤〔外国語部会〕
「小学校外国語の授業づくりについて」
講師：有田 洋平指導主事
(西部教育事務所)



⑥〔情報教育学部会〕
・半日教研 指導案検討
・実践交流等



⑦〔教育相談部会〕
事例検討会
講師：井上 貴美先生
(特別支援教育巡回アドバイザー)



⑧〔養護部会〕
・教材作成(ポスター2部)
・実践交流等



⑨〔事務部会〕
「多様な性についての理解と支援」
～性的思考・性自認について～
講師：高橋 大輔主任社会教育主事
(西部教育事務所)

第2回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)

8月28日(月)に第2回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)を開催しましたので、その内容について報告します。(講話・資料抜粋)

講師に高知県スクールカウンセラーの小松宏暢さんをお迎えし、『保育・教育現場での子どもを取り巻く諸課題について』と題して、講話と事例演習をしていただきました。

はじめに小松SCの指導のもと、2グループに分かれて自己紹介ゲーム(自己理解・他者理解)を行いました。

講話の主な内容は

- ① 文科省不登校の定義、文科省不登校に対する支援の目標
- ② 不登校児童生徒数の推移、高知県と全国との比較
学年が上がるにつれ、しんどい子どもの割合も上がる 小 → 中1ギャップ
環境の変化に適應できない
- ③ 不登校の背景、不登校・学校不適應のパターン(小～高)
- ④ 不登校とは 『学校に行けないから行かない』この『行けない背景』に何があるのかを
考えいくことが支援の第一歩
- ⑤ 不登校からの回復過程
エネルギーの低下→対人・集団恐怖 ←早期の介入が重要
エネルギー低下のサインを見逃さない(特に身体の不調は重要サイン)
- ⑥ エネルギーの回復には 安心・安全な環境、理解してくれる人の存在
焦らず「待つ」「見守る」ことも重要
・現状を理解 → 寄り添う取り組み → 回復には時間が必要

○事例演習【架空事例・小学4年生Aくん】への対応について(グループ演習)

- ① 本人への支援
- ② 保護者への支援
- ③ その他

先ず個人で上記枠内①②③について考え、それぞれのグループ内でお互いの意見をシェアし、最後に各グループでシェアされた内容をグループ代表が発表し、全体でシェアしました。

(感想)

○事例を通して不登校になりがちな児童(小4Aくん)についてグループで話し合いができ、勉強になりました。本人への支援、保護者への支援の在り方を深めることができました。その後、各グループのシェアがあり、小松先生より講話(資料)をいただき、さらに深めることができました。次回もさらに詳しく聞く機会もいただけたことと、楽しみです。

○不登校の児童生徒への支援について、児童生徒本人の気持ちに寄り添った対応が大事だと改めて感じました。本人だけではなく保護者など家族との関わりも同じくらい大切にすることが大事だと感じました。信頼関係を築いて、それぞれの個に応じた支援ができるように学校でも支援につなげていければと思います。

○実際に事例集でのワークショップもあり、多様な先生方の考察や意見を聞くことができ良かったと思います。いろいろな経験からや現場での体験からの意見や見立てもあり、参考になりました。次回については親子で発達障害の問題を抱えていたりする場合のアドバイス等において、参考になるようなことがあれば、聞かせてください。